

加須市魅力ある学校づくり基本計画（骨子案）

概要版

市教育委員会では、持続可能な魅力ある学校づくりに向けた学校再編の取組を進めています。このたび、「加須市魅力ある学校づくり審議会」において議論を重ね、基本計画の骨子案をまとめました。

骨子案は、学校再編の具体（対象となる学校や実施時期、学校形態など）を整理するための考え方をまとめた、検討のたたき台です。

20年後の未来を見据え、こどもたちにとって何が最善かを皆さんと一緒に考えることは、こどもたちにとってよりよい教育環境を整える大切な一助となります。

ぜひ、皆さんのお考えやご意見をお寄せください。

1

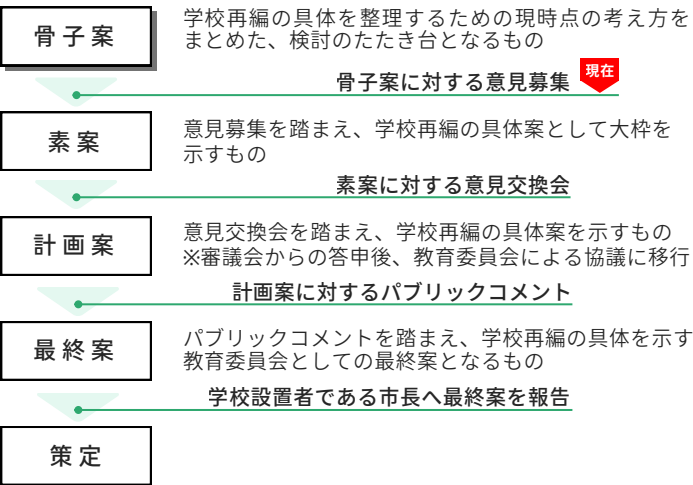
「基本計画」ってどんな計画なの？

▶ 本編 P1～2

加須市魅力ある学校づくり基本計画は、令和7年度に策定した基本方針のもと、こどもたちにとってよりよい教育環境を整え、20年後も存続し続ける持続可能な魅力ある学校づくりを具現化する計画です。

少子化に伴う学校の小規模化が進む中、どの学校を、いつ、どのように再編していくのかという道筋を示すものであり、令和8年度中の策定を目指しています。

右の流れに沿って、様々な機会を通して寄せられた市民の皆さんの意見を広く取り入れながら計画づくりを進めていきます。



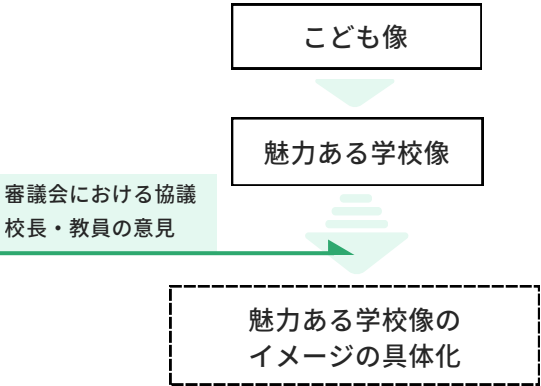
2

「魅力ある学校」ってどんな学校？

▶ 本編 P7～10

基本方針で掲げる「魅力ある学校像」は、「こども像」に示した資質や能力を育むための学びの場となる学校の姿を表しています。

本市が目指す学校の姿を市民の皆さんと共有し、持続可能な魅力ある学校づくりを進めるため、「魅力ある学校像」のイメージの具体化を行いました。



3

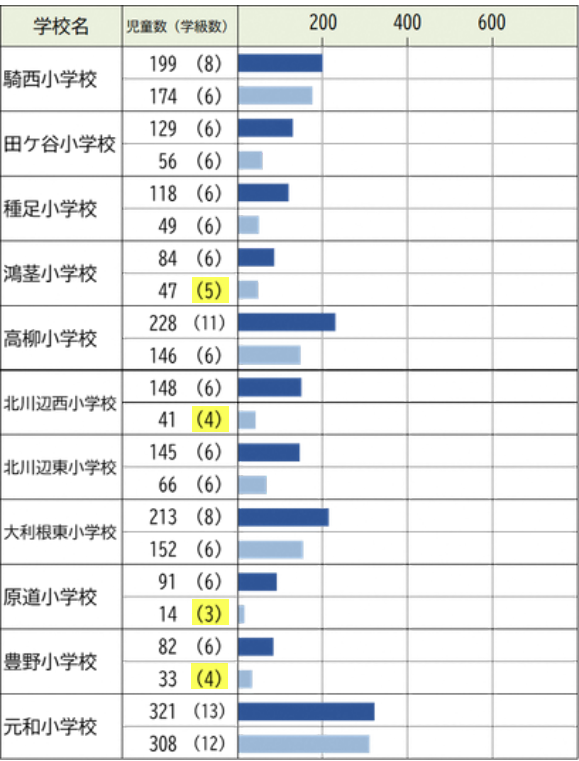
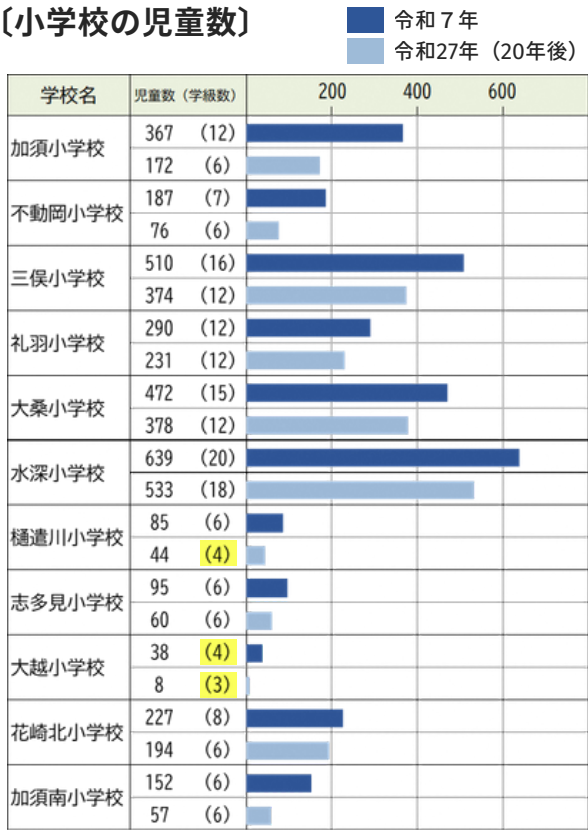
20年後の小中学校はどうなる？

▶ 本編 P11～48

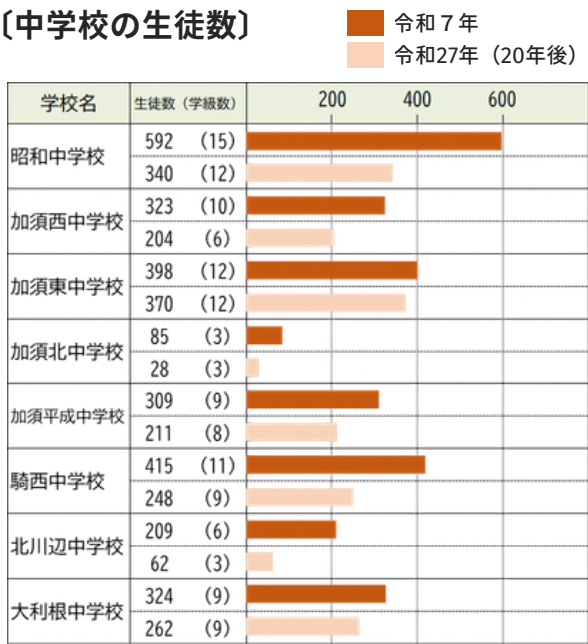
各小中学校の児童生徒数の将来推計を下表にまとめました。本編では、5年ごとの推計値（令和12年、17年、22年、27年）を掲載しています。

20年後となる令和27年には、全ての学校において児童生徒数が減少する見込みではあるものの、減少の度合いは学校によって大きな差が見られます。

〔小学校の児童数〕



〔中学校の生徒数〕



check

- ・児童生徒数は、特別支援学級の児童生徒を含む在籍児童生徒数です。
- ・令和7年の学級数は、通常学級数です。令和27年の学級数は、特別支援学級に在籍する全ての児童生徒が通常学級に在籍するものとして算出しています。
- ・小学校において学級数が6学級を下回る学校は、2つの学年で1学級となる「複式学級」を編制する学校となります。



学校再編の具体（再編の対象となる学校や実施時期、学校形態など）の整理に当たっては、学校の持続可能性といった観点から、全市的視野をもって検討する必要があります。

このため、学校再編の優先順位を見える化した上で、学校単位（点）で捉えるのではなく、いくつかの学校区をまとめたブロック（面）で捉え、学校再編の具体を整理します。

（１）優先順位を見える化するための指標

▶ 本編 P49～50

基本方針で定めた「学校規模の方針」では、「望ましい学級数の目安」を目指しつつも、「少なくとも必要な学級数の目安」を重視し、今後20年を見据えた持続可能な学校規模を検討しています。

この考え方のもと優先順位を見える化するに当たり、「少なくとも必要な児童生徒数・望ましい児童生徒数の指標」と「優先順位の指標」を設定します。

ア 少なくとも必要な児童生徒数・望ましい児童生徒数の指標

児童生徒アンケートや校長・教員アンケート等の調査結果を踏まえ、1学級当たりの児童生徒数の下限人数を「小学校20人、中学校30人」とします。

この下限人数に「学校規模の方針」で設定した学級数を乗じて求めた人数を、小・中学校それぞれの児童生徒数の指標とします（右表参照）。

少なくとも必要な児童生徒数の指標	<u>小学校 120人以上</u> （20人×6学級以上） <u>中学校 90人以上</u> （30人×3学級以上）
望ましい児童生徒数の指標	<u>小学校 240人以上</u> （20人×12学級以上） <u>中学校 270人以上</u> （30人×9学級以上）

イ 優先順位の指標

優先順位の指標は、複式学級の編制状況や少なくとも必要な児童生徒数・望ましい児童生徒数を基に以下のとおり、検討の優先度が高い順に5段階で設定します。

第1優先	<u>既に複式学級の編制となっている学校</u> →早期に検討が必要な学校
第2優先	<u>今後、複式学級の編制が見込まれる学校</u> <u>現中学校区内の全ての小学校の優先順位が第2優先以上となる中学校</u> →今後、検討が必要な学校
第3優先	<u>少なくとも必要な学級数(小学校6学級以上、中学校3学級以上)は維持するも、</u> <u>少なくとも必要な児童生徒数を下回る学校</u> →児童生徒数の動向や保護者・地域の声を注視し、検討の必要性を見極める学校
第4優先	<u>20年後も少なくとも必要な児童生徒数以上を維持する学校</u> →今後、小学校の全学年が単学級となり、児童生徒数の動向や保護者・地域の声を注視していく学校
第5優先	<u>20年後も望ましい児童生徒数をほぼ維持する学校</u> →今後も望ましい児童生徒数の維持が見込まれる学校

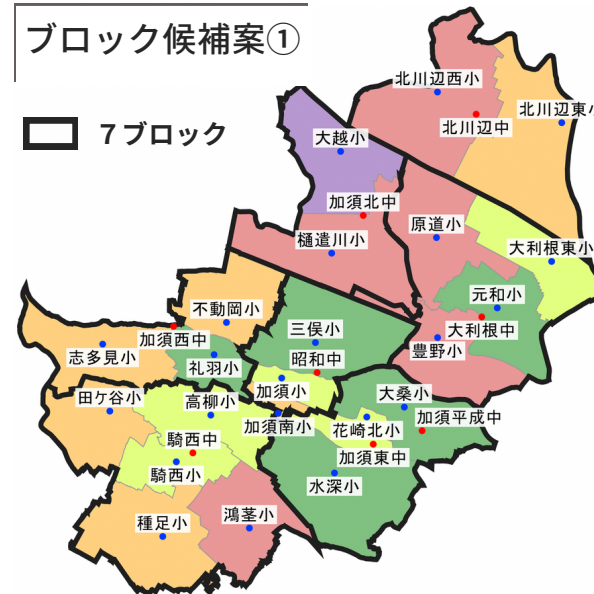
審議会での協議を踏まえ、4つのブロック候補案をまとめました（下図参照）。

各小中学校区の色は、「優先順位の指標」で設定した5段階の優先度を示しています。

骨子案に対する意見募集により4つの候補案に関する意見を伺い、それらを踏まえつつ、「子どもたちへの影響」「地域性、地域コミュニティとの結びつき」「学校の持続可能性」など、総合的な観点から学校再編ブロックを設定し、ブロックごとに学校再編の具体を整理します。

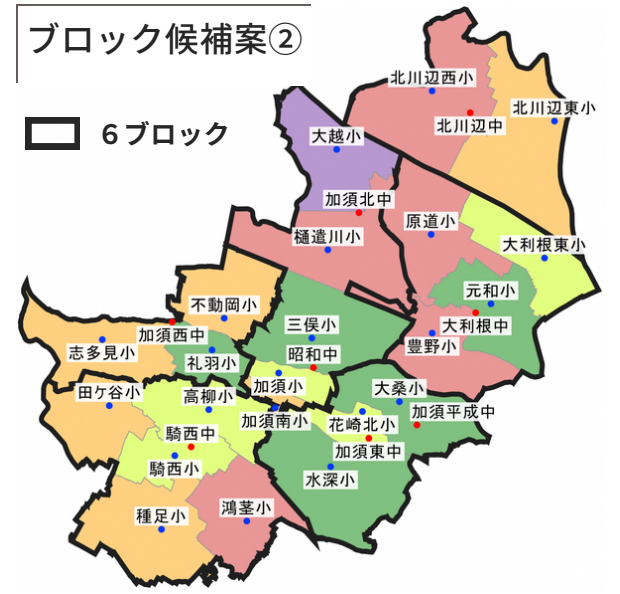
ブロック候補案①

7ブロック



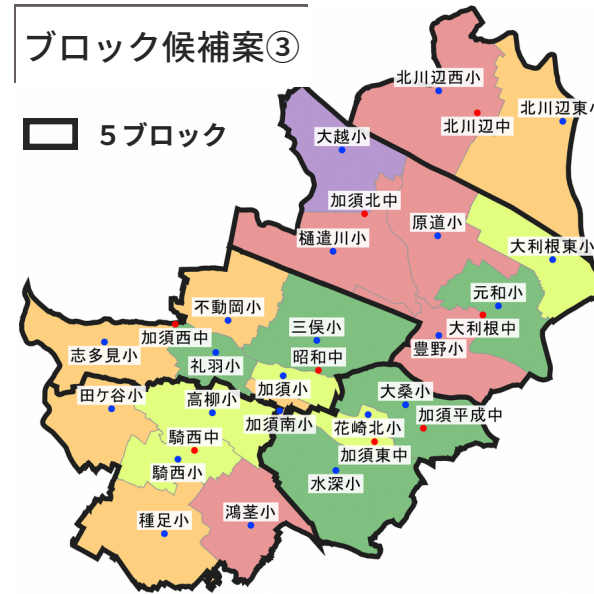
ブロック候補案②

6ブロック



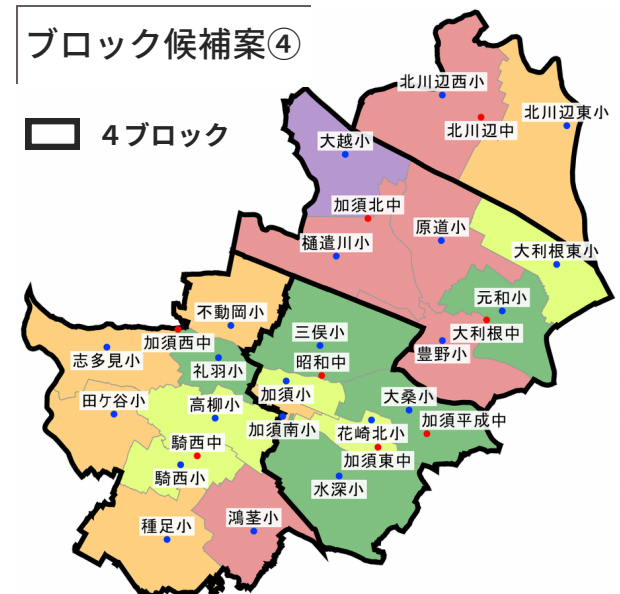
ブロック候補案③

5ブロック



ブロック候補案④

4ブロック



check

ブロックの設定は、ブロックごとに学校再編の具体を整理するため行うものであり、同一のブロック内の学校を一つに再編することを前提としたものではありません。

